



洛北観光の新たな礎を築く 観光列車「ひえい」

叡山本線は、1925年9月に霊峰比叡山への参拝路線として開業した路線である。京都中心部から八瀬・比叡山へ。グッドデザイン賞やローレル賞を受賞した大胆でシンボリックなデザインの観光列車「ひえい」が、洛北観光の新しい時代を切り開いている。

車両デザイン



「ひえい」は、京阪グループが取り組む、京都中心部から八瀬、比叡山を經由してびわ湖に至る観光ルート「山と水と光の廻廊」活性化の一環として、叡山本線に導入された。

叡山電車の二つの終着点「比叡山」と「鞍馬山」が持つ荘厳で神秘的なイメージを「楕円」のモチーフで大胆に表現している。奥深い山々を連想させる深緑色の車体で、側面には比叡山の山霧をイメージした金のストライプを配している。

観光アクセスと市内近隣への通勤・通学利用を両立した車両であると同時に、30年前に製造された車両のリニューアルであることを感じさせないデザインなどが評価され、デビューした2018年度の「グッドデザイン賞」、2019年の「ローレル賞」を受賞した。

インテリア



内装も楕円のデザインを貫いている。ヘッドレストの位置と楕円の窓形状を連動させて、適切な座席誘導と外の風景の切り取りを両立。座席の両端や扉横には、楕円をイメージしたスタンションポールを設置している。



地域の誇りと皆で所有する感覚を喚起するデザインに



株式会社GKデザイン 総研広島
プロダクトデザイン部
デザイナー 鈴木スバル

鈴木スバル

私はデザインを考える際に、それが使われている現場や現地に足を運び、そこで感じるものを大切にしています。その土地らしさを自分なりにひも解きデザインに活かすためです。「ひえい」をデザインした際も、叡山本線と鞍馬線を巡りました。比叡山を訪れた時、山には霧が立ち込め、霊峰の持つ神秘的な自然を深く感じ、このスピリチュアルなイメージをデザインコンセプトの核にしようと考えました。

具体的なデザインとして、叡山電車の路線の二つの終着点に位置する「比叡山」「鞍馬山」、この二つの神秘的な霊峰のイメージを「楕円形」という二つの中心を持つ象徴的な図形で表現しました。車両正面の金色の楕円リングは川崎重工の方々の大変な苦勞の末に実現できました。

楕円形は、側面にも使用しています。この車両は、観光客だけではなく沿線住民も利用される。沿線の景色を楽しんでもらいつ

つ、快適に座っていただくために背もたれは高くしたかったです。窓と座席の形状を合わせてデザインすることで、眺望性と快適性、両方を確保できました。その他の部分でも至るところに楕円形を展開し、一貫したテーマの世界観を描きました。スタンションポールや座席の仕切りで形づくった進行方向を貫く楕円の形は、現代から神秘的比叡山へ、違う世界へと向かう時空のトンネルをイメージしています。

最近ではカーシェアリングなど、モノが所有から共有に変わってきているように感じます。ただ、よくできたモノに対して感じる魅力、モノを所有することの喜びというのは、人の本能の中に確実にあると思っています。公共交通は確かに共有のモノという側面が大きいです。地域の人々や関係者など皆が、その存在に誇りや愛着を感じ、意識の上で皆の所有物になることが大事ではないかと思っています。結果、それが他の地域の人々を引きつける引力を生むものになっていると思っています。

大阪からプレミアムカーで京都へ行き、出町柳で乗り換えてひえいで比叡山へ向かう。私たちが京阪グループにストーリー性を感じていますが、乗客も2つの電車を利用することでストーリーを紡いでもらえたらと思っています。

